

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2024年2月)

【内政】

- 8日、タロン大統領は記者会見で、憲法改正及び大統領3選の意思はないと述べた他、サヘル同盟(AES)諸国のECOWAS脱退につき、同諸国に対する制裁を停止し、現状を受け入れる必要があると述べた。(9日各紙)
- 27日、憲法改正案に関する採決が国民議会法制委員会で実施され、賛成多数により審議を通過。(28日、La Nation 紙)

【外政】

- 15日、アジャディ・バカリ外務大臣とシンギロ・ブルンジ外務大臣は、ブルンジ国民を対象とするベナン入国査証免除協定に署名。(21日、L' Evénement Précis 紙)
- 15日、コトヌで漁業及び水産養殖、農業サブセクターの開発協力における経済・技術協力の一環として、第1回ベナン・モロッコ水産フォーラムが開催。(16日、La Nation 紙)

【治安】

- 15日、アトランティック(ATLANTIQUE)県アボメ・カラヴィ(Abomey-Calavi)市内で、国防・治安部隊の831名が参加する対テロ対策合同訓練「Metropoili2024」が実施。(19日、Le Matinal 紙他)
- 5日、コフィ・アナン国際平和維持訓練センターによる「西アフリカのサヘル地域及び隣接する沿岸諸国における暴力的過激主義、急進化、小型武器の拡散防止」能力強化コースの開講式が開催され、一條基信臨時代理大使が出席。(6日、La Nation 紙他)

【経済】

- 21日、ニジェール・ベナン原油パイプラインプロジェクトにおける、原油流出緊急対応プランの検証会議が開催。(26日、Le Matin Libre 紙他)

【文化・その他】

- 1日及び2日、在ベナン日本国大使館は、北海道大学アフリカルサカオフィスとの共催で、日本留学生説明会を開催。(9日、L' Economiste 紙他)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L' Evénement Précis 紙、L' Economiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- 8日、タロン大統領は記者会見で、憲法改正及び大統領3選の意思はないと述べた他、サヘル同盟(AES)諸国のECOWAS脱退につき、同諸国に対する制裁を停止し、現状を受け入れる必要があると述べた。(9日各紙)

- ・ 9日、大統領令により、経済・財政及び開発、産業振興、中小企業、就職支援等を所掌する計12名の顧問大臣からなる、大統領直轄の顧問大臣団(Collège des Ministres conseillers)が設立された。(6日、La Nation 紙、9日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 27日、国民議会法制・行政・人権委員会で、憲法改正案が可決された。今後、国民議会本会議における採決が実施予定。(28日、La Nation 紙)

【外政】

- ・ 1月30日、トランスペアレンシー・インターナショナルは汚職認識指数ランキングを公表した。ベナンはアフリカ地域で8位、全世界180か国中70位で、昨年の72位から順位を上げた。(5日、Le Matinal 紙及び L'Économiste 紙、6日、La Nation 紙)
- ・ 5日、ソグロ元大統領は、オバサンジョ元ナイジェリア大統領とともに、エヤデマ元トーゴ大統領の19回忌のためにトーゴを訪問し、ニヤシンベ大統領と会談した。(7日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 6日、フィンランド大使は、信任状写しをアジャディ・バカリ外務大臣に提出した。(7日、La Nation 紙)
- ・ 8日、デチェヌ国璽尚書・法務・立法大臣及びアブシールUNDP常駐代表は、「刑務所における人権啓発・保護及び法の支配強化支援プロジェクト」の文書に署名した。本プロジェクトは、UNDPベナン事務所及び米国務省国際麻薬・法執行局の協力により実現した。(12日、L'Économiste 紙、14日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 15日、第44回アフリカ連合(AU)総会に出席しているアジャディ・バカリ外務大臣とシンギロ・ブルンジ外務大臣は、ブルンジ国民を対象とする渡航ビザ免除協定に署名した。(21日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 15日コトヌで、漁業・水産養殖及び農業分野の開発協力における経済・技術協力の一環として、第1回ベナン・モロッコ水産フォーラムが開催された。(16日、La Nation 紙)
- ・ 28日、アンゴラ大使、メキシコ大使及びブルキナファソ大使は、信任状写しをアジャディ・バカリ外務大臣に提出した。(29日、La Nation 紙)

【治安】

- ・ 5日、コトヌ(Cotonou)市内で、コフィ・アナン国際平和維持訓練センターによる「西アフリカのサヘル地域及び隣接する沿岸諸国における暴力的過激主義、急進化、小型武器の拡散防止」能力強化コースの開講式が開催され、一條基信臨時代理大使が出席した。(6日、La Nation 紙及び L'Économiste 紙、7日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 7日、ベナン政府は閣議で、ベナン全土、特に国境地帯の治安強化を目的として、国境地帯に位置する7つの地区への警察署新設を決定した。(8日、La Nation 紙、9日、L'Événement Précis 紙、13日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 15日、アトランティック(ATLANTIQUE)県アボメ・カラヴィ(Abomey-Calavi)で、国防・治安部隊の831名が参加する対テロ対策合同訓練「Metropoili2024」が実施され、ヌアティン大

統領付国防担当副大臣及びセイドゥ内務・公共安全大臣が出席した。(19日、Le Matinal 紙及び L' Evénement Précis 紙)

- ・ ボルグ県(BORGOU)ニッキ(Nikki)で、狂犬病にかかった犬に、5歳から13歳の子供5名が腕や顔を噛まれ、病院で治療を受けた。(20日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 20日、サイバー犯罪抑止事務局(OCRC)は、アトランティック県(ATLANTIQUE)アボメ・カラヴィ並びにズー(ZOU)県ボイコン(Bohicon)及びアボメ(Abomey)で、合計18名をサイバー犯罪容疑で逮捕した。(22日、Le Matinal 紙)
- ・ 21日、共和国警察は、ボルグ(BORGOU)県カラレ(Kalale)で抜き打ちの家宅捜索を行い、261kgの偽造医薬品を摘発した。(23日、Le Matinal 紙、26日、L' Economiste 紙)
- ・ 23日、ベナン国軍ウイダ基地で、米務省政治・軍事局の支援で改装された武器庫の引渡式が実施され、エリス米臨時代理大使が出席した。(26日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙)

【経済】

- ・ 8日、米ミレニアム・チャレンジ・コーポレーション(MCC)創設20周年式典が開催され、ブラウトンMCC常駐代表及びシューカン米大使が出席した。(9日、La Nation 紙)
- ・ 21日、ニジュール・ベナン原油パイプラインプロジェクトにおける、原油流出緊急対応プランの検証会議が開催され、生活環境・運輸・持続的開発担当大臣代行及び国内外から30名以上の専門家、ベナンとフランス当局、西アフリカ石油パイプライン会社(WAPCO)の管理部門関係者が出席した。(26日、Le Matin Libre 紙及び L' Evénement Précis 紙、27日、La Nation 紙)
- ・ 22日、新コトヌ零細漁港建設計画資金供与協定(3,600万ユーロ規模)の署名式が実施され、ワダニ経済・財務大臣及びユリエンス・オランダ大使他が出席した。同漁港の引き渡しは2025年12月予定。(23日、L' Economiste 紙、26日、Le Matinal 紙)

【文化・その他】

- ・ 1日及び2日、在ベナン日本国大使館は、北海道大学アフリカルサカオフィスとの共催で、日本留学生説明会を開催した。(9日、L' Economiste 紙及び L' Evénement Précis 紙)
- ・ 10日、中国文化会館で、2024年春節記念式典が開催され、ペン中国大使及びアビンボラ観光・文化・芸術大臣他が出席した。(12日、La Nation 紙、14日、Matin Libre 紙)
- ・ 10日及び11日に、チュニジアで2024年チュニス・アフリカ・オープン柔道大会が開催され、ベナン出身のウイナト選手が、男子81kg級で銅メダルを獲得した。(16日、Matin Libre 紙)
- ・ 24日、元日本留学生・奨学生協会(2A2BJ)は、第5回通常総会を開催し、アラピニ・カボを新会長に選出した。(26日、Le Matin Libre 紙)